

5 外国語活動，外国語科

(1) 外国語活動，外国語科における思考力・判断力・表現力の育成と評価の実態

ア 言語活動の充実の考え方

外国語活動，外国語科の目標であるコミュニケーション能力の育成においては，児童生徒が身に付けた外国語等を用いて，自分の気持ちや考えを伝え合うことにより，思考力・判断力・表現力を高めることが重要である。具体的には，図30のように児童生徒にとって価値があり，興味深いと感じられる題材に関して，物事を考え判断させたり，使用する外国語や伝え方を工夫して表現させたりすることで言語活動の充実が図られる。

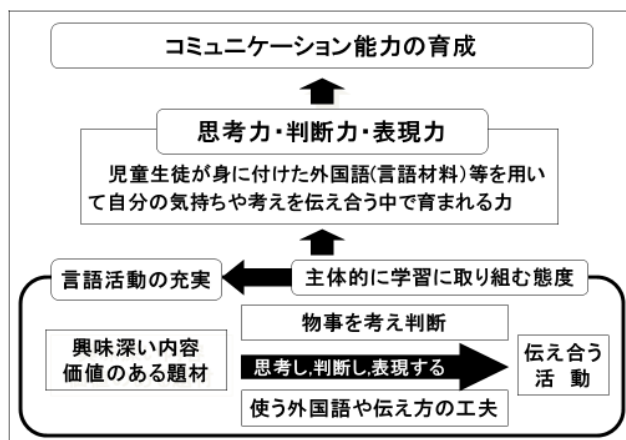


図30 思考力・判断力・表現力を高める言語活動

イ 実態調査の結果と考察

平成23年度に実施した実態調査の結果から，「思考・判断・表現」の評価に関して次のような現状と課題が明らかとなった。

外国語活動では，「英語ノートやワークシートの記述」や「活動における子どもの様子や発言」などを資料として活動中の児童の発言や工夫した点を評価している（図31）。これらの見取りの現状については，学期や学年の大まかな評価規準から総合的に評価している学校が多いことから，単元ごとに具体的な評価規準を適切に設定することが課題である。

外国語科における「思考・判断・表現」の評価では，「記述式のテスト」，「ノートやワークシート」や「英語で書いた作品」などが資料として使われている（図32）。しかし，生徒が記述した資料等の見取りに当たっては曖昧な点があるため，評価規準に沿った判断の基準の明確化が課題である。

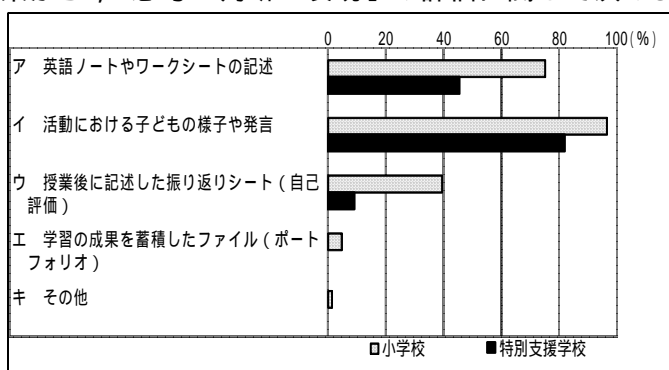


図31 外国語活動における評価の資料

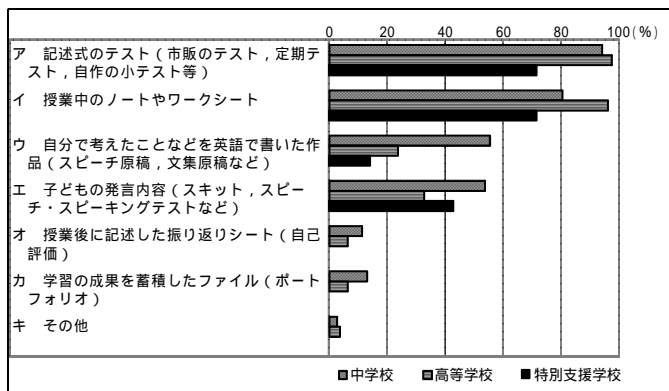


図32 外国語科における評価の資料

(2) 外国語活動，外国語科における「思考・判断・表現」の評価

ア 「思考・判断・表現」の観点

(ア) 外国語活動

児童が思考・判断し表現する一連の活動は，外国語活動の目標であるコミュニケーション能力の素地が総合的に発揮された結果と考えられることから，次に示す評価の3観点の

趣旨を踏まえて評価規準を設け，児童の活動の様子を適切に評価する必要がある。

観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣旨	コミュニケーションに関心をもち，積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して，言語の面白さや豊かさ，多様なものの見方や考え方がることなどに気付いている。

(イ) 外国語科

生徒の「思考・判断・表現」の評価は，外国語で聞いたり読んだりして理解したことについて，思考・判断したり表現したりする過程を含めて行うことが適切である。このことから，次に示す評価の4観点のうち，基礎的・基本的な知識・技能を踏まえながら，主として「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点から生徒の表現や作品等を評価規準に照らして適切に評価する必要がある。

観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち，積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして，自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して，言語やその運用についての意識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。

これらの能力は，例えば，教科書の本文から聞いたり読んだりして得た情報や考えを的確に理解し，その題材に関する自分の考えなどを，相手を意識して既習の言語材料を用いて適切に伝えるといった，4技能を統合的に活用する言語活動の中で育成される。外国語学習では，発信するために必要とされる語彙や文構造等の知識・理解を基盤としながらも，これらの言語材料が自然な言語の使用場面においてどのように活用されているかを見取ることで，外国語科における「思考・判断・表現」を評価することにつながる。

イ 外国語活動における評価規準，外国語科における「判断基準」の設定の在り方

(ア) 外国語活動

前述のとおり，目標に照らして評価の3観点から評価規準を定めて評価を行う。外国語活動は，技能向上のみを目標とした指導は適切ではない。したがって，評価においても「聞くことができる」や「話すことができる」という見取りで数値化して評価するのではなく，図33のように，教師が授業の中で求める児童の具体的な姿を想定し，児童の個々の状況を見取っていくことが大切である。

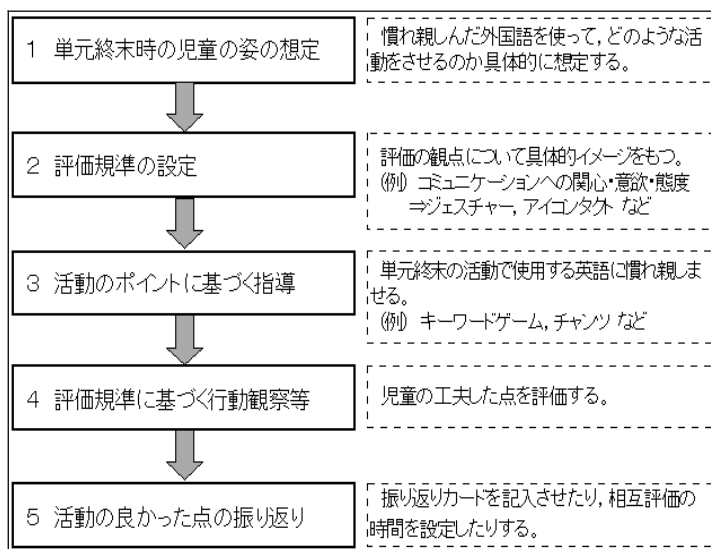


図33 外国語活動における評価の流れ

(イ) 外国語科

図34は、外国語科における「判断基準」の設定等について示したものである。生徒が理解したことを基に自分の思いや考えを様々な方法で表現する4技能の統合的な言語活動においては、「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」の評価規準に表されている内容を、分析的に「判断の要素」として端的に示すことで、評価の視点が明確になる。

さらに、「判断の要素」に基づき、具体的に生徒の到達の程度を示したものが「判断基準」である。これにより、生徒の活動の様子や表現を適切に見取ることができ、評価後も適切な補充・深化指導を行うことができる。また、「判断基準」の設定の際は、その妥当性を高めるため、既習の言語材料等を考慮しながら予想される生徒の表現等を教師が作成することが大切である。

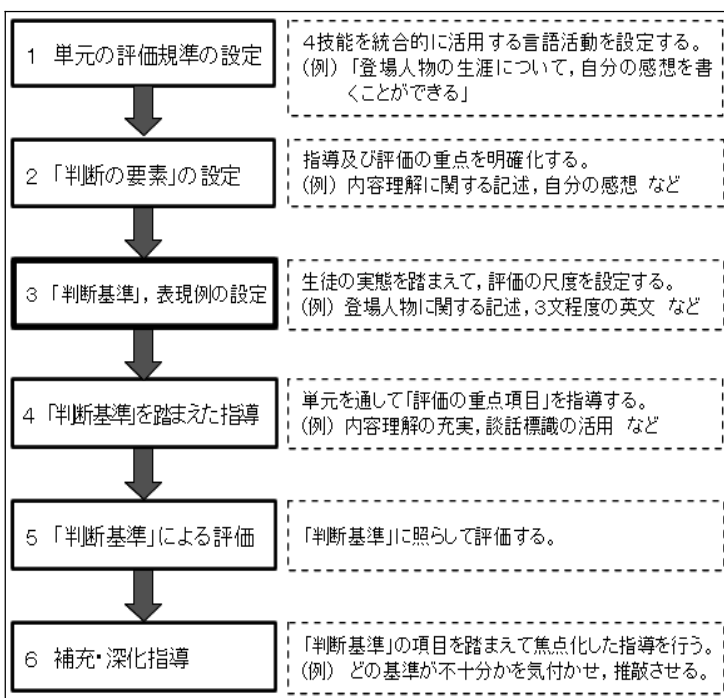


図34 「判断基準」による外国語科の評価の流れ

【「判断基準」の設定例(中学校 第3学年 「Don't Ask Me That Question」)】

評価規準【外国語表現の能力】		単元の目標に照らして設定する。
本文の内容について要点を適切に聞き取り、文化によるあいさつなどの違いについて、既習の表現を用いて自分の考えや感想を書くことができる。		
評価時期及び評価の対象		
6時間構成の第2時における終末時 教科書題材を基にした生徒の英作文		評価規準で設定された生徒の「思考・判断・表現」の学習状況を分析的に表す。
判断の要素		
ア 内容理解に関する記述 イ 自分の考え ウ 語彙、文構造、文章構成 エ 英文の量		
尺度	判断基準	判断の要素を、「おおむね満足できる状況」で示す。
B	ア 登場人物の言動の引用がある。 イ 登場人物への賛否がある。 ウ 効果的な文構造を使用している。 エ 5文程度の英文である。 【予想される生徒の表現例】 I thought Jenny was often angry at first. But I understand her now. It is rude to ask "Where are you going?" in Jenny's country. I want her to know Japanese people are not rude. So I want to ask Jenny, "How are you?"	判断基準に照らして具体的な生徒の表現例を想定する。
C状況の生徒への指導	【補充指導】B状況にある作品をモデルとして示し、対話活動等を通して必要な文構造や語彙に慣れ親しませるなど、状況にあった表現の内在化を図る。	判断基準Bを基に、指導が必要な生徒に対する補充指導の例を示す。
A	登場人物の言動を要約している。 理由付けの根拠や例示がある。 英文が充実し、接続詞等が効果的に使われている。 その他、B状況以上にあると認められるもの。(判断基準Bにない視点での記述など)	判断の要素を、「十分満足できる状況」で示す。
B状況の生徒への指導	【深化指導】現在ある作品の内容や状況を確認し、更に良くするという視点で「登場人物の言動を要約している」「理由付けの根拠や例示がある」等の視点から指導する。	判断基準Aを基に、「おおむね満足できる状況」の生徒に対する深化指導の例を示す。

(3) 「判断基準」に基づく指導と評価

ア 「判断基準」に基づく指導の考え方

外国語科については、評価の対象となる活動までに、「判断基準」が満たされるように、単元を通して、教材の理解や自己表現に必要な言語材料等について段階的な指導を行うことが重要である。例えば、ホームステイの題材に関連し「対話の状況を考えながら、身近な話題について、話の展開に理由等を付けて話すことができる(中2)」という評価規準を設定した場合、次のような判断基準Bや予想される生徒の表現例が想定される(表10)。

表10 判断基準Bと予想される生徒の表現例

判断基準B	予想される生徒の表現例
ア テーマに関連したことを述べている。	A: Excuse me. Can I talk with you?
イ 自分の気持ちや価値を述べている。	B: Sure.
ウ 既習事項を活用している。	A: Let's talk about sports.
エ 会話の始めと終わりの表現を用いている。	B: I like soccer. It's a lot of fun.
オ 4往復程度の対話ができる。	A: Do you like to play it or watch it? B: I like to play it.

このような判断基準Bを単元を通して満たすことができるよう、題材の内容理解を進めるとともに、例えば、1単位時間に5分程度の対話活動を設定し、既習事項を用いて身近な話題についての対話を積み重ねることで、単元終末の表現活動が充実すると考えられる(表11)。

表11 「判断基準」に基づく単元を通した指導計画

時	統合的な言語活動を目指した指導	評価を生かした指導
1	<ul style="list-style-type: none"> 判断基準Bに基づき、毎時5分程度の対話活動を設定し、必要な語彙や言語材料を少しずつ活用させる。 生徒自身の発想が生かされる対話活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話したことについてマッピングを行わせ、対話内容について判断基準Bに基づき評価し、指導に生かす。 学級全体に共通する課題については、一斉指導を行う。
2		
3		
4		
5	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて対話する活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 再生記録を基に評価結果を分析する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 補充・深化指導等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「判断基準」に基づく指導を行う。

イ 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

思考・判断したことを書く活動はもちろんのこと、話す活動においても、活動への取組状況を観察するとともに、生徒自身に対話した内容を文字に書き起こさせて評価を行うことで、生徒の状況を把握することができる。表10の対話活動の表現例における評価結果に基づく、補充・深化指導の例を次に示す。

C状況の生徒への指導	<p><判断基準Bによる見取り></p> <p>質問に対して、助けてもらいながらようやく答えている状況。最後の質問は、質問内容を聞き取ることができず、黙ってしまった。</p>	<p><補充指導></p> <p>相手の話していることが聞き取れなかった場合の表現や、質問されて答えた後に、相手に問い返す言い方などを、他の生徒と教師が実際に対話をしてみせた。</p>
B状況の生徒への指導	<p><判断基準Bによる見取り></p> <p>テーマに関連したことを述べており、自分の気持ちも述べている。また、既習事項の疑問詞を活用し、理由を尋ねるなど多様な言語材料を使用している。</p>	<p><深化指導></p> <p>判断基準Aに基づき、これまでの経験や思い出などについても展開できるよう、過去形の使用を示したり、A状況の生徒の対話記録を示したりするなど、発想の広がりを促した。</p>

(4) 各学校の実践例

ア 小学校第6学年 単元名「できることを紹介しよう」「I can swim.」(Hi, friends! 2 Lesson 3)

(ア) 単元及び本時の概要(3/4)

本単元は、外国語で「できる」「できない」という表現を使いながら自分を表現することを通して互いのことを知り、コミュニケーションの大切さに気付くことのできる内容である。

本時においては、ゲームやクイズを通して、基本的な表現に慣れ親しむことを目標としている。

(イ) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
友だちに自分の「できること」や「できないこと」を積極的に伝えたり、友だちに尋ねたりしようとする。	“I can ~.”, “I can't ~.”を使って自分の「できること」「できないこと」を伝えている。 “Can you ~?”を使って友だちに尋ねている。	自分と友だちのできることの違いや友だちのよさに気付いている。

期待する児童の姿が表れないときの手立てについては、(オ)考察で述べる。

(ウ) 指導計画

時間	主な学習活動	コ	慣	気	主な評価規準	評価方法
1	「できること」「できないこと」の紹介を聞いてみよう。 ALT, 教師のスピーチから、言い方の違いに気付く。				「できる」「できない」の違いに気付いている。 ジェスチャーの必要性に気付いている。	・ 行動観察 ・ 振り返りカードの発表・分析
2	「できること」「できないこと」を言ってみよう。 音声を聞いたり、“Who am I?”クイズをする。				動作を表す言葉や「できる」「できない」の表現を聞いたり、言ったりしている。	・ 行動観察 ・ Hi, friends!点検, 振り返りカードの分析
3 (本時)	友だちの「できること」「できないこと」を聞いてみよう。 ビンゴゲームや自分たちで考えた“Who am I?”クイズをする。				できるかどうかを尋ねたり、答えたりしている。 ジェスチャーや表情など、分かりやすく伝えるための工夫をしている。	・ 行動観察 ・ Hi, friends!点検, 振り返りカードの分析
4	友だちと積極的に交流しよう。 自己紹介をグループで行う。 自己紹介当てゲームで、どの友だちか当てたり、情報を付け加えたりする。				自分の「できること」について進んで紹介している。 自己紹介当てゲームに進んで参加している。	・ 行動観察 ・ ワークシート点検, 振り返りカードの分析

(エ) 本時の実際

過程	学習活動	教師の働き掛け	「思考・判断・表現」の評価
導入	あいさつやチャンツを行う。	・ 動作を表す言葉について、ジェスチャーを入れながらやりとりして、前時を想起する。	
展開	活動1「インタビュービンゴゲーム」 ・ グループ毎に相談し、教師に対して“Can you ~?”と質問し、ビンゴを目指すゲームを行う。 ・ 各児童が、自分で質問を考え、友だちにインタビューする。 活動2「“Who am I?”ゲーム」	・ グループで表現を考えることで、苦手意識をもっている児童も安心して活動できるようにする。 ・ インタビューの結果を次のクイズに生かすことを伝えておく。 ・ 友だちのよい点や意外な一面を含めてクイズを作成させる。	友だちに進んで尋ねたり、答えたりしている。 (行動観察) 分かりやすく伝える方法を工夫している。 (行動観察)
終末	振り返りをする。 ・ 活動でよかったところを発表する。	・ 嬉しかったことや友だちのよい点についても気付かせる。	

(オ) 考察

本時の指導及び評価について、評価規準の3観点から述べる。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

予想される(期待される)児童の姿が現れないときの手立て
活動にうまく参加できない児童のために、活動の相手を指定したり、個別に一緒に活動をしたりする。自信をもって活動できるよう必要に応じて部分的に日本語を交えて参加させる。

コミュニケーション活動時に、最初の相手を指定することで、普段から大切にしているアイコンタクトや表情、適度なジェスチャーなど、積極的に伝えようとすることに集中できた。二人目以降は自分で相手を探して活動を行ったが、外国語活動を通して、言葉で人と関わる楽しさや、大切さに気付き、人と積極的に関わる態度につながってきた。



外国語への慣れ親しみ

予想される(期待される)児童の姿が現れないときの手立て
児童が自信をもって活動ができるようになるまで、何度もゲーム的活動を行い、学級全体で「できること」「できないこと」を言ったり尋ねたりする場面を作る。

“I can ~.”, “I can't ~.”を聞く活動を最初に十分にとることで、同活動の後半では自然と児童が教師のまねをして口に出すようになった。その後、チャンツやキーワードゲームなどを通して、活動に必要な単語や表現に慣れ親しむことができた。

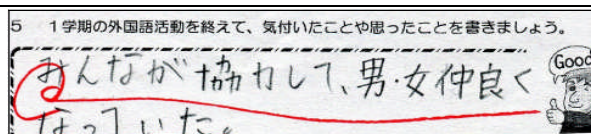


(児童の感想) ゲームなどをいっぱいしながら、いつの間にかいろんな英語が言えるようになっていた。

言語や文化に関する気付き

予想される(期待される)児童の姿が現れないときの手立て
コミュニケーションを図る活動の後にグループでの振り返りの時間を設け、友達のよさを考えさせたり、話し合わせたりする。

英語による「できること」「できないこと」の交流では、今までに知らなかった友達の意外な面に気付き、相手のこと



を知ったことに楽しさを感じる児童もいた。また、ALTの発表を聞きながら、異なる環境・異なる文化による「できること」「できないこと」の違いに気付き、「違ってもいいんだ。」「できないことがあってもいいんだ。」という雰囲気が出ていた。

(カ) 成果と課題

評価規準を設定したことにより、活動のゴールがイメージでき、活動の選択と配列が容易にできるようになった。また、児童が活動に困難を感じ、思うようにコミュニケーションを図ることができていない場合、評価規準ごとに手立てを考えておくことで指導や助言を円滑に行うことができた。

評価規準に照らして、各単位時間ごとに具体的な児童の活動の様子をどの程度記録に残していくかが今後の課題である。

イ 中学校第2学年 単元名 Program 3 “Charity Walk” (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

(ア) 単元及び本時の概要 (5 / 6)

チャリティ・ウォークという参加型の義援金収集活動が題材として取り上げられている。本単元の指導においては、チャリティについて読んだことを基に、段階的に対話活動 (Expression Practice [以下「EP」という。]) をさせながら、自分ができるチャリティについて表現する統合的な活動を行わせる。

(イ) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
間違いを恐れず、自分の気持ちや考えなどを書いている。	本文の内容に関して、チャリティについての感想や考えを書くことができる。	教科書の本文を読んで、その内容を正しく読み取ることができる。	新出助動詞等の意味・用法を理解している。チャリティに関する知識を身に付けている。

(ウ) 「判断基準」

評価時期及び評価の対象(思考・判断に基づく表現内容)	
6時間構成の第5時における終末時 読んだことを基にした感想や考えの記述	
尺度	判断基準
B	<p>ア トピックを提示している。 イ 自分の気持ちや価値を述べている。 ウ これからの行動を具体的に述べている。 エ 既習の言語材料を活用している。 オ 5文以上の英文で書いている。</p> <p>(予想される生徒の表現例) I read about “Charity walk.” I think it’s very important. We have to help poor children. I will help many people. I can sell my CDs and books and get some money. I can give the money to a charity group.</p> <p>・ read, learned など基本的な動詞の過去形を用いたトピックの提示 ・ 既習の助動詞等の活用(have to, will, can) ・ I think ~.を使った自分の意見の記述</p>
A	<p>(判断基準Bに加えて) 自分の気持ちや考えを示し、自分の立場で何ができるかを具体的に述べている。 代名詞や接続詞、副詞等を効果的に用いている。 その他、B状況以上にあると認められるもの。(判断基準Bにない視点での記述など)</p>

B 状況, C 状況の生徒に対する深化・補充指導については, (オ) 考察で述べる。

(エ) 本時の実際

時	教科書教材の内容に基づく表現活動	教師の働き掛け ～ は教科書の内容に即した対話活動 (EP)	判断基準を生かした指導
1	Charity について一言で考えを述べる。	A:What do you think of charity in this page? B:It’s interesting. (important)	判断基準ア～ウの内容について、各時間の対話活動で話し、結果を書いて表現できているかを見取る。書いた結果は、ペアやグループで確認する。
2	Charity Walk について自分の考えを述べる。	A:Do you want to join the event? B:Yes, I do. / No, I don’t. I want to help people.	
3	Walk the World について自分の考えを述べる。	A:Do you understand about Walk the world? B:Yes. People around the world walk against hunger.	
4	Charity について自分のアイデアを表現する。	A:Why do they walk against hunger? B:Because they want to help poor children. A:What can you do for them? B:I can make money and give them.	
5 (本時)	Charity について、学んだことやこれまでで表現したことを基に、5文以上の英文で表現する。	<p>「チャリティ」というトピックを設定し、自分の意見や自分にできることなどを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「チャリティ」について自己表現をする。(これまでのEPの活用) ・ グループ内で内容を紹介し、練り合う。 ・ 「チャリティ」についてまとまりのある5文以上の英文を書く。 	判断基準の全てを満たすよう盛り込むべき内容、表現形式を示しながら、机間指導で見取る。全体的に指導するものを、個別に指導するものを区別する。

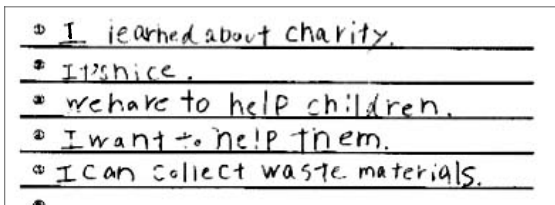
(オ) 考察

「判断基準」による指導

既習事項を用いて、身近な話題についての対話活動を第1時から繰り返し継続して行った。生徒は、友人と繰り返し話す中で、チャリティに対する「自分の気持ちや考え」が明確になり、自ら表現する内容、必要な語彙や表現形式について慣れ親しませることができた。第5時（本時）においては、これまでの積み重ねを基に、自分にできることを加えて「5文以上の英文」で書く活動を設定した。



第5時の対話活動はグループ内で行わせ、活動への取組状況を観察す



書く活動における作品例と生徒の様子

るとともに、生徒自身にこれまでのEPで活用した内容をワークシートにまとまりのある英文を記述させて評価を行った。

「判断基準」による見取りと補充・深化指導（生徒の作品は原文のまま）

生徒の作品の状況	作品の見取りと評価に基づく指導
<p>「おおむね満足できる」状況の例</p> <p>I learned about charity. It's nice. We have to help children. I want to help them. I can collect waste materials and make money.</p>	<p>トピックの提示と自分の気持ちに加えて、自分のこれからの行動についても表現されている。談話標識を挿入し、更に具体的な内容を付け加えたりするなどの指導を判断基準Aに基づき行った。</p>
<p>「努力を要する」状況の例</p> <p>I learned about charity. It's nice.</p>	<p>トピックの提示と自分の気持ちの記述にとどまっている。ペアによる対話活動においては、部分的な応答で終始していたことから、音声で確認させ、再度書かせる指導を行った。</p>
<p>「十分満足できる」状況の例</p> <p>I read about charity in this program. It's great. I can't join the charity walk. We have to help them. For example, I can sell my books and CDs and get money. I can send the money to a charity group.</p>	<p>判断基準Bを満たし、談話標識も適切に使用されている。内容の広がりをもたせるため、チャリティの内容を具体的に表すことや、問題点を明らかにしていくことなどを、談話標識を用いた表現形式とともに指導した。</p>

(カ) 成果と課題

「書くこと」について「判断基準」を設定したことにより、目標とする英文の質的・量的な程度が明確になり、生徒個々への対応に陥りがちだった指導が改善された。

評価規準に基づく「判断基準」の設定を踏まえた指導計画の作成により、生徒の学習状況をどの時間で見取るかが明確になり、評価の効率化が図られた。

本実践での評価は、主にワークシートを活用して行ったが、取組状況の観察による方法や評価テストなど、多様でかつ効率的な評価方法を考える必要がある。

ウ 高等学校第2学年 単元名 Lesson 3 “Crossing the Border” (CROWN English Series)

(ア) 単元及び本時の概要 (5 / 6)

題材として「国境なき医師団」のメンバーとして難民キャンプでの医療活動に尽力する日本人女性医師の姿が取り上げられている。本単元の指導においては、限られた設備と医療品を用いての医療活動の厳しさについて理解したことを基に、単元終末に、医師が下した苦渋の決断に対する自分の考えを書いて表現する統合的な活動を行わせる。

(イ) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
英文を読んで、その内容について自分の体験や知識等と結び付けながら、自分の思ったことや考えたことを積極的に書いている。	本文の内容について、自分の立場を明示した上で、それに関する意見や理由を書くことができる。	各場面の筆者の心情に着目しながら、本文の内容を的確に理解することができる。	本文に出ている重要語の意味や用法を理解している。 強調構文の意味や用法を理解している。

(ウ) 「判断基準」

評価時期及び評価の対象	
6時間構成の第5時 読んで理解したことについての感想や考えの記述	
尺度	判断基準
B	ア 筆者の決断に対して、賛成か反対か自分の意見を明確に書いている。 イ 自分の意見に説得力をもたせるための根拠や具体例を書いている。 ウ 概ね正しい英語で書いている。(綴りや文法等の基本的な間違いは4箇所まで) エ 60語程度で書いている。 (予想される生徒の表現例) I would like to tell her that her decision to turn off the oxygen was right. This is because she had to use the last tank of oxygen well. She had to treat not only the dying boy but also all the sick people at Madhu. It was natural for her to decide to keep it for another people who might need oxygen. (63 words)
A	(判断基準Bに加えて) 自分の意見に説得力をもたせるための根拠や具体例を複数書いている。 接続詞を適切に使用しながら論理的な文章構成になっている。 ほぼ正確な英語で書いている。(間違いは2箇所まで)

B状況、C状況の生徒に対する深化・補充指導については、(オ)考察で述べる。

(エ) 本時の実際

時	教科書教材の内容に基づく表現活動	教師の働きかけ ～ は教科書の内容に基づく発問	判断基準を生かした指導
1	教科書の写真を用いた英問英答を通して本文の概要を表現する。	What does she do? Is it easy for her to work as a doctor? Why?	第5時に行う技能統合の活動について、判断基準BのA、イが満たされるように教科書教材の内容理解を充実させる。 机間指導を通して判断基準Bを基に全体的に指導するものと個別に指導するものとを区別する。
2	筆者の進路選択について自分の考えとその理由を英文で表現する。	Why does she join MSF? Why do you think so?	
3	難民キャンプでの筆者の苦闘について自分の考えを3文程度で書く。	How is her working situation? What do you think of it?	
4	医師として苦渋の決断をした場面を、ロールプレイする。	医師、患者の少年とその母親、看護師の役割を演じさせることで、医療品維持のために酸素マスクを外す決断をした医師の心情を深く理解させる。	
5 (本時)	医師の下した苦渋の決断についての自分の考えを60語程度の英語で表現する。	前時のロールプレイでどんなことを考えたかを想起しながら、自分の考えを書くように指示する。	

(オ) 考察

「判断基準」による指導

第5時の統合的な活動に向けて、「判断基準」を踏まえて、結論から述べたり、自己の考えの根拠を示したりすることができるよう、教科書教材の各部分の内容理解において生徒の意見や考えを引き出すような英問英答を行った。特に、第4時の表現活動では、それまでの内容を実感を伴って理解できるようロールプレイを行い、第5時の課題にスムーズに取り組めるようにした。さらに、第6時において、判断基準に基づく補充・深化指導を行った。



医師役を演じる生徒

【C状況の生徒の作品】

I think that decision is right. Of course, it is natural for the doctor to help people who is ill and injured. But in taht situation, the child was suffering. I also think the doctor must not suffer the such people so I think that decision is right. (48語)

補充指導

- ・ 判断基準Bを提示し、どの基準が満たされていないかを個別に指示した。
- ・ B状況の作品を示し、自分の作品よりどこが優れているかを考えさせた。

判断基準B - ア
賛成・反対の明記
判断基準B - イ
本文の内容に関する記述が弱い
判断基準B - ウ
情報の伝達に支障がある間違い
判断基準B - エ



(補充指導後の生徒の作品)

I think her decision was right. I have two reasons. For one thing, she considered the feeling of the child. His breathing was difficult and the oxgen* mask made him uncomfortable*. For another, she thought she would save other people. The oxgen* is their last tank, and they didn't know when their next tank was coming. Therefore, I think her decision was right. (63語)

判断基準B - ア
賛成・反対の明記
判断基準B - イ
複数の根拠を明示
本文の内容理解に関する記述
判断基準B - ウ
ほぼ正確な英文
判断基準B - エ
60語以上で記述

【B状況の生徒の作品】

I think that the decision was right. Because the boy was uncomfortable and not improving, and it was important to know when the new oxygen tank next. If you use the last oxygen, you couldn't have saved him or her. Doctor must make decisions early and save people as much as possible. The decision was difficult. When you make a decision, you must be sad. (65語)

深化指導

- ・ 英文の説得力、論理性、正確さなどの視点を示し、一つの視点から推敲させた。
- ・ A状況の生徒の作品を示し、自分の作品よりどこが優れているかを考えさせた。

判断基準B - ア
賛成・反対の明記
判断基準B - イ
意見の根拠を明示
判断基準B - ウ
概ね正しい英語
判断基準B - エ
60語以上で記述

【A状況の生徒の作品】

I think that her decision was right in that situation. Firstly if it were* not for her decision to turn off the oxygen, the boy would have suffered and the oxygen would not be left for other people who were hopeful to* survive. Secondly, she should help more people as a doctor. A doctor must do his or her best, but also think about the situation. So her decision was right. (71語)

(カ) 成果と課題

評価対象とする課題及びその「判断基準」をあらかじめ設定していたので、指導のポイントが明確になり、単元を通して「判断基準」を満たすための段階的な指導ができた。

「判断基準」を明確に設定することで、これまでに比べ、より客観的で的確な評価をすることができた。

抽象度の高いテーマや、難解な英文を扱う際は、生徒が自分の知識や体験と結び付けながら英語で自分の意見や考えを表現することが難しいため、評価対象の課題の設定を工夫する必要がある。